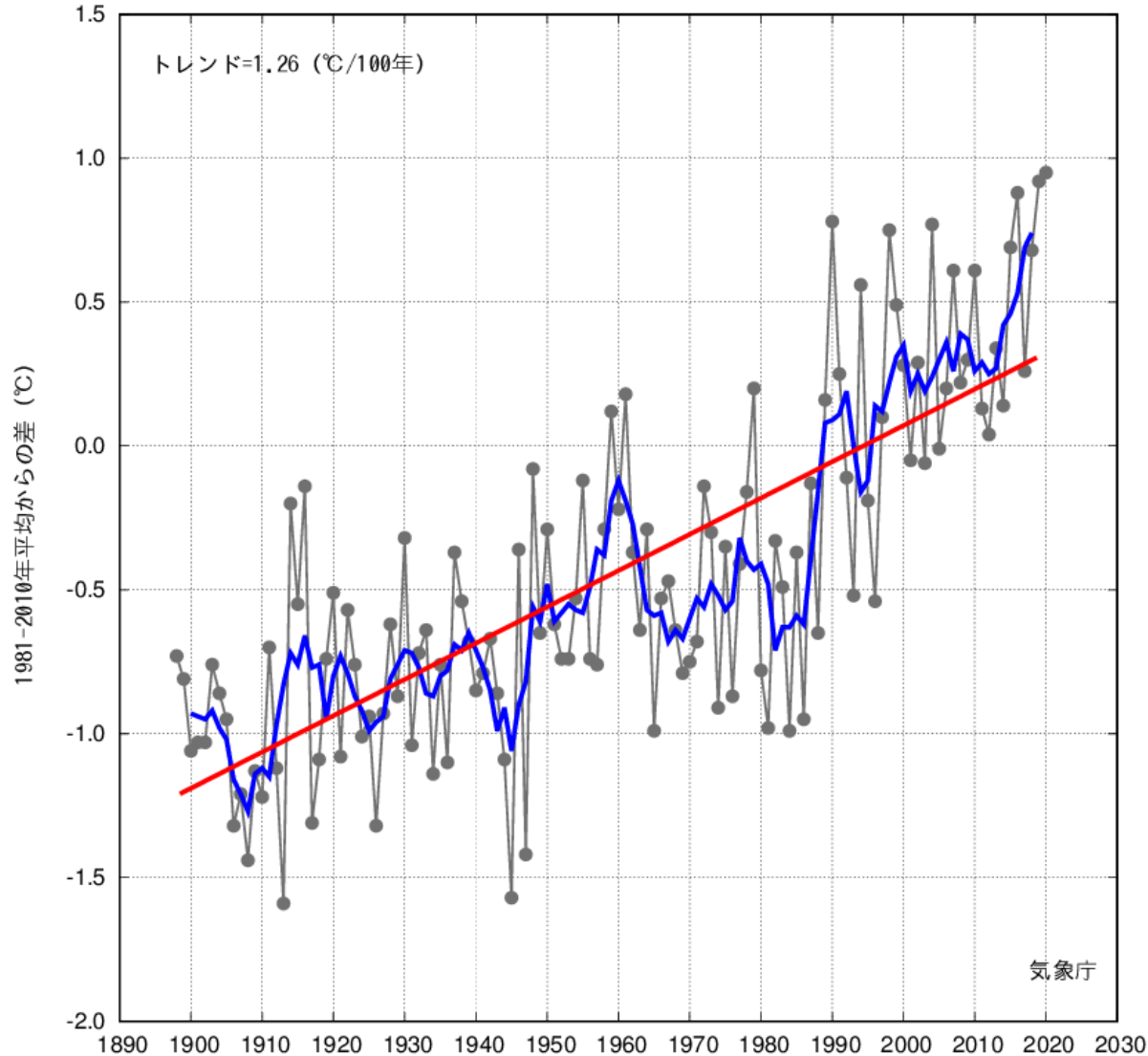


# 平成30年7月豪雨災害の教訓をふまえた 地域の防災活動について

香川大学 IECMS地域強靱化研究センター 磯打千雅子

# 極端な気象現象の増加

日本の年平均気温偏差



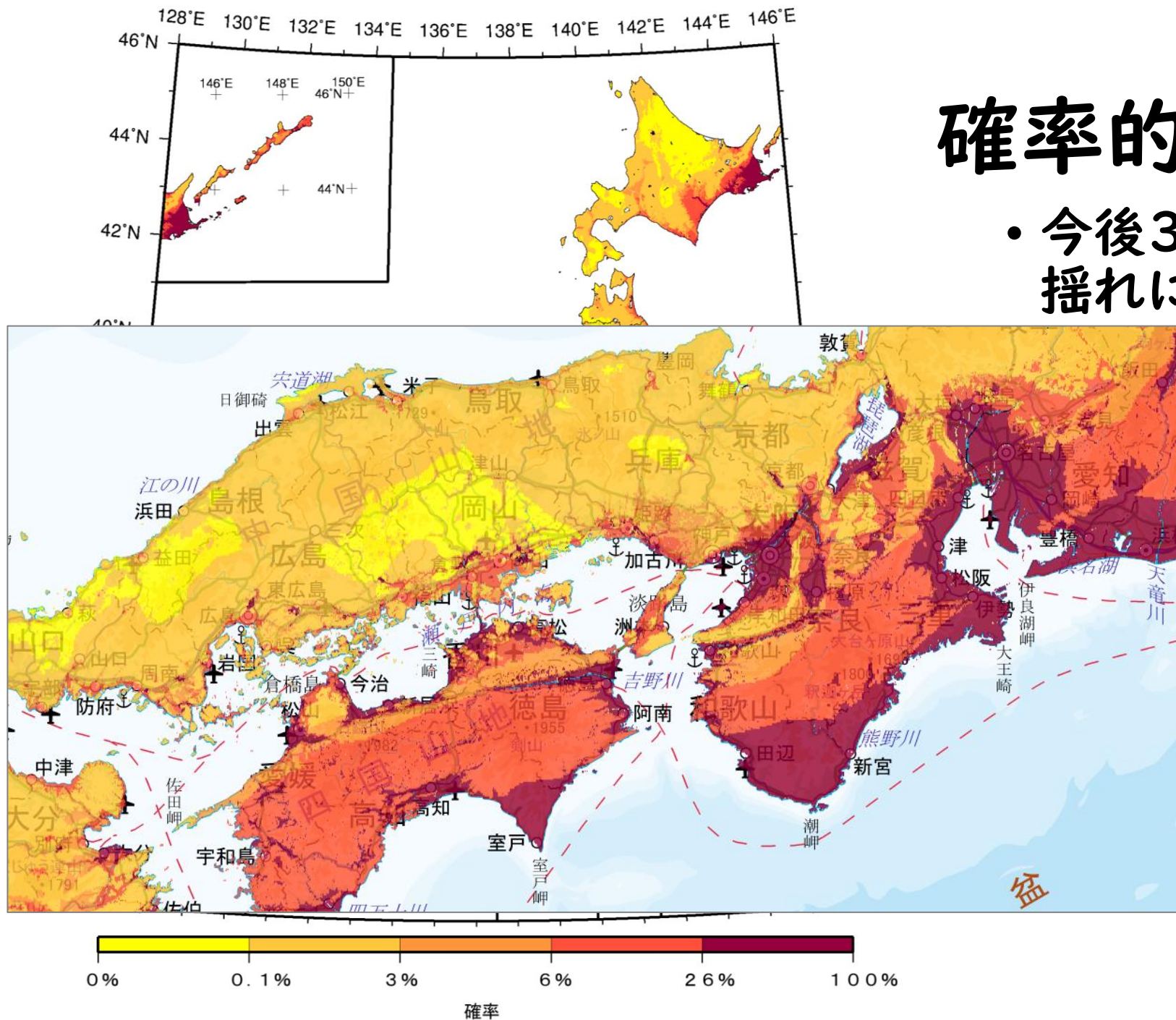
- 日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇
- 長期的には100年あたり1.26°Cの割合で上昇
- 特に1990年代以降、高温となる年が頻出
- 気象研究所の調査結果；
  - 1980年から2019年の過去40年分の観測データや気象解析データを用いて、日本に接近する台風の特徴の変化を調査
  - 東京など太平洋側の地域に接近する**台風の数が増加**
  - 東京では、期間の前半20年と比べて後半20年の接近数は約1.5倍
  - 強い強度の台風（例えば中心気圧が980hPa未満の台風）に注目しても接近頻度が増加
  - **台風の移動速度が遅くなる傾向**

出典：気象庁

出典：気象研究所

# 確率的地震動予測地図

- ・ 今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率



# 私たちの暮らす環境

1. 日本の国土全体の内, 住むことができる平野は何割？

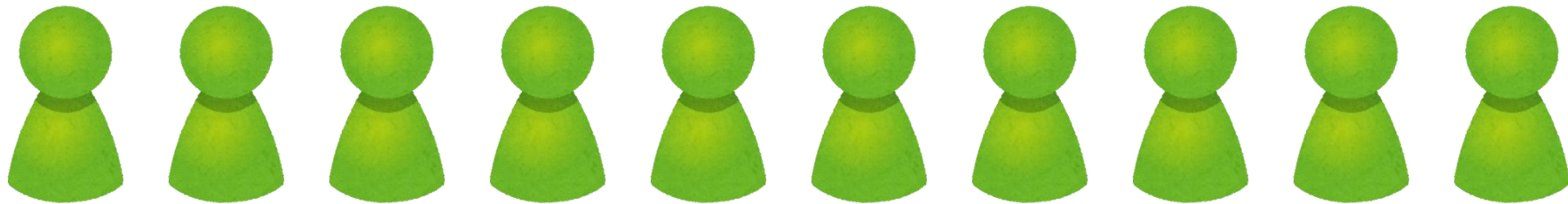




# 私たちの暮らす環境

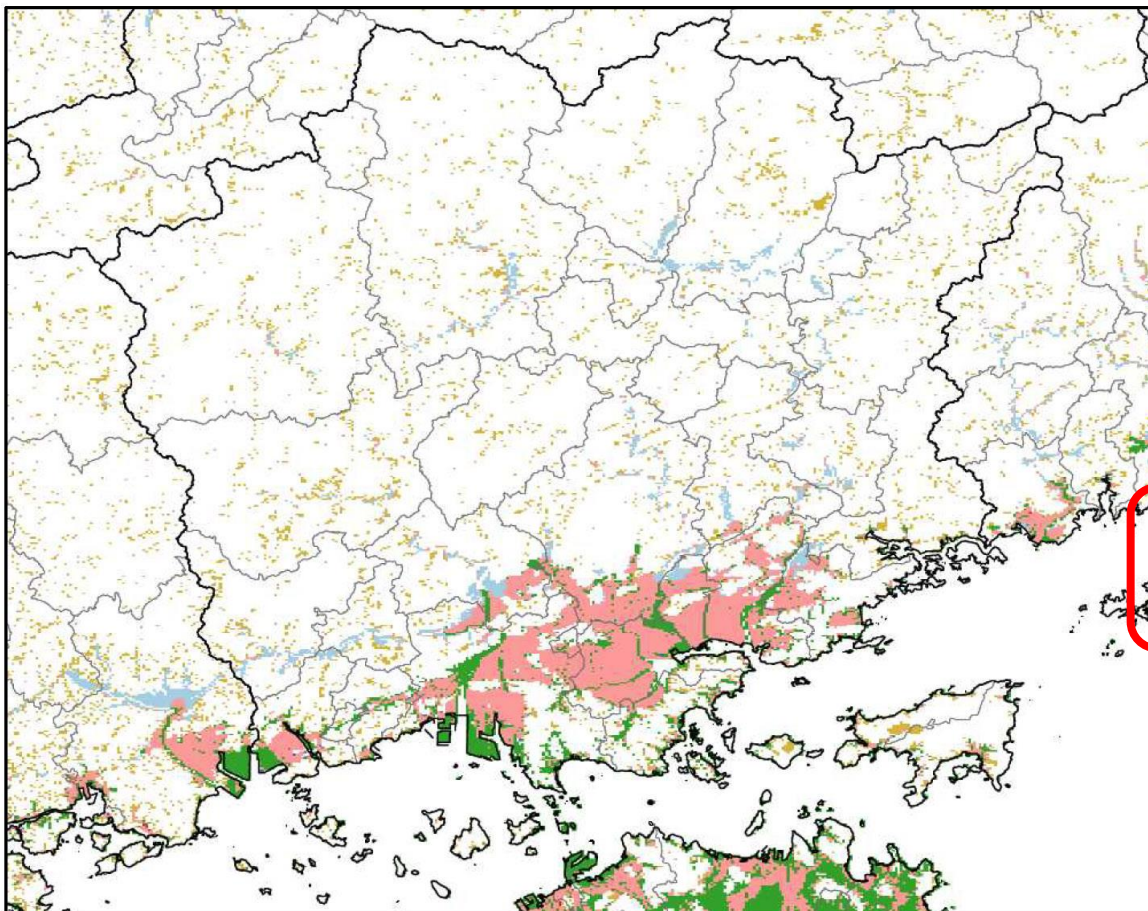
2 その内, 災害に対して危険だとわかっている場所に住んでいる人は  
どれくらい?

日本の人口約 1 億2.7千万



- 岡山県の災害リスクエリア内人口は2015年で約137万人、2050年には約119万人となり、県内総人口に対する割合は約5%増加すると予測されている。
- 2050年には洪水リスクエリア、地震リスクエリア内人口はそれぞれ約8万人、約10万人減少するが、県内総人口に対する割合はそれぞれ約7.1%、約6.8%増加すると予測されている。

災害リスクエリアの重ね合わせ図

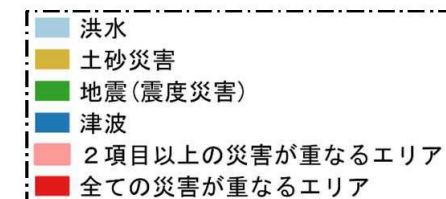


岡山県の将来人口推計

	2015年	2050年
人口	192万人	156万人

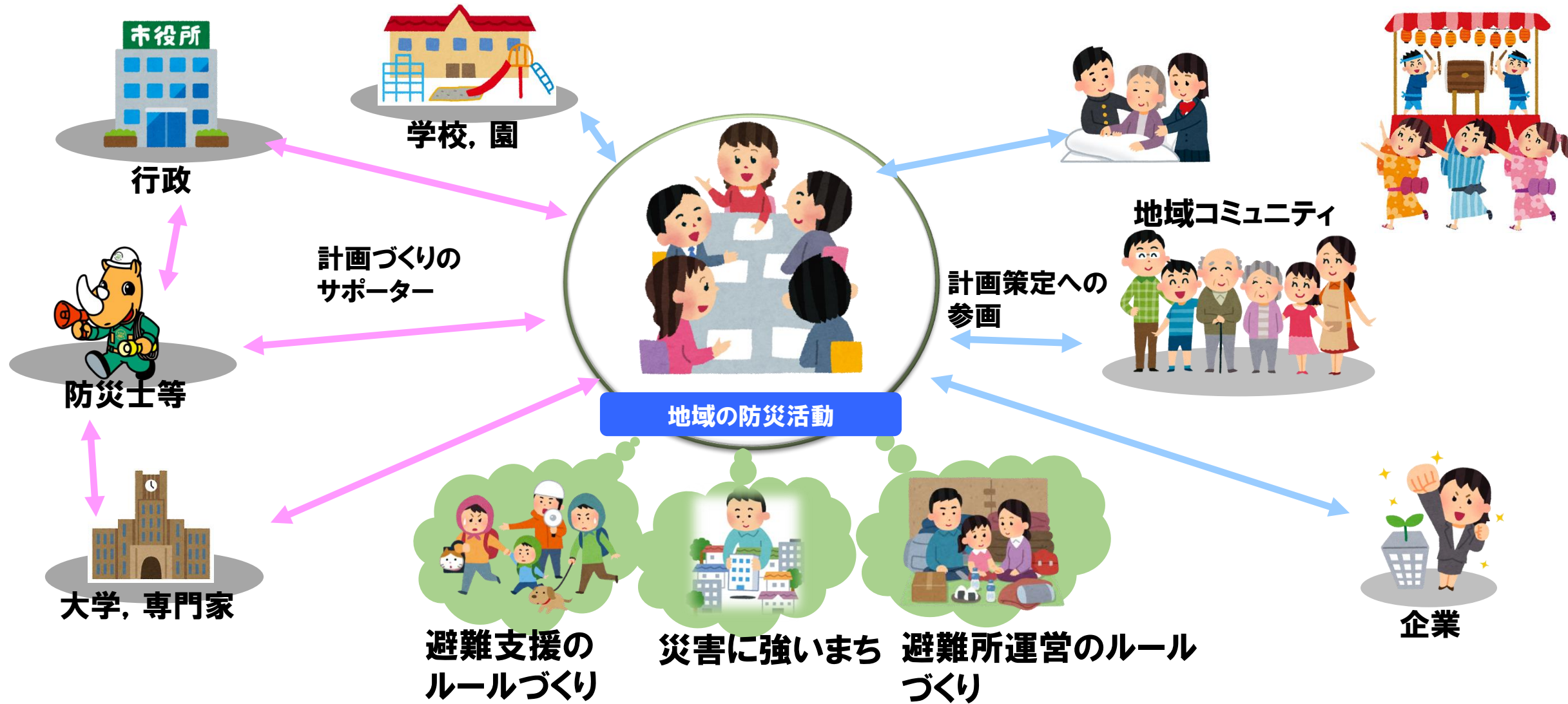
岡山県の4災害影響人口

対象災害	リスクエリア内人口 (2015) (総人口に対する割合)	リスクエリア内人口 (2050) (総人口に対する割合)
洪水	98万人(50.8%)	90万人(57.9%)
土砂災害	15万人(7.8%)	9万人(5.8%)
地震 (震度災害)	112万人(58.4%)	102万人(65.2%)
津波	26万人(13.5%)	23万人(14.5%)
災害リスク エリア	137万人(71.5%)	119万人(76.5%)



※なお、洪水、土砂災害、地震(震度災害)、津波のいずれかの災害リスクエリアに含まれる地域を「災害リスクエリア」として集計しています。

# 防災から始めるまちづくり まちづくりから始める防災



防災がきっかけになり 目的・目標にもなる

# 事例紹介

- 防災がつないだ町の復興
  - 倉敷市真備町川辺地区
  - 平成30年7月豪雨からの復興と“黄色いタスキ大作戦”
  - 誰もが参加しやすい工夫
- 要配慮者が地域をつなぐ
  - 要配慮者マイタイムラインの取り組み
- まちづくりからはじめる防災（まちづくり＋防災）
  - 岡山県津山市城西地区
  - 小規模多機能自治の取り組みに防災活動を上乗せ



# 倉敷市真備町は水害と共に歩いて来たまち

かぐら土手跡

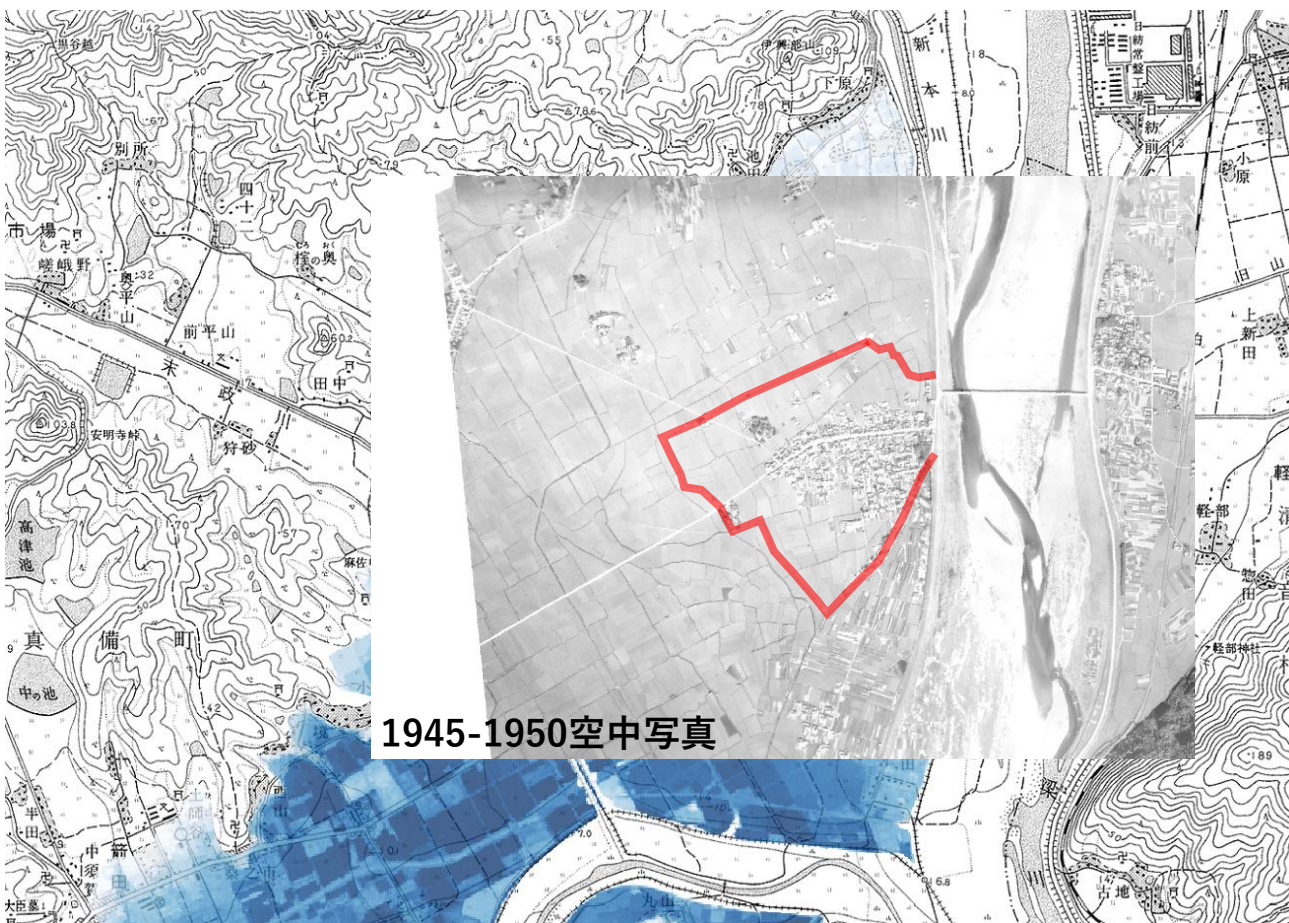


上：川辺分館駐車場  
下：源福寺



明治23年大洪水と平成30年7月豪雨  
慰霊碑

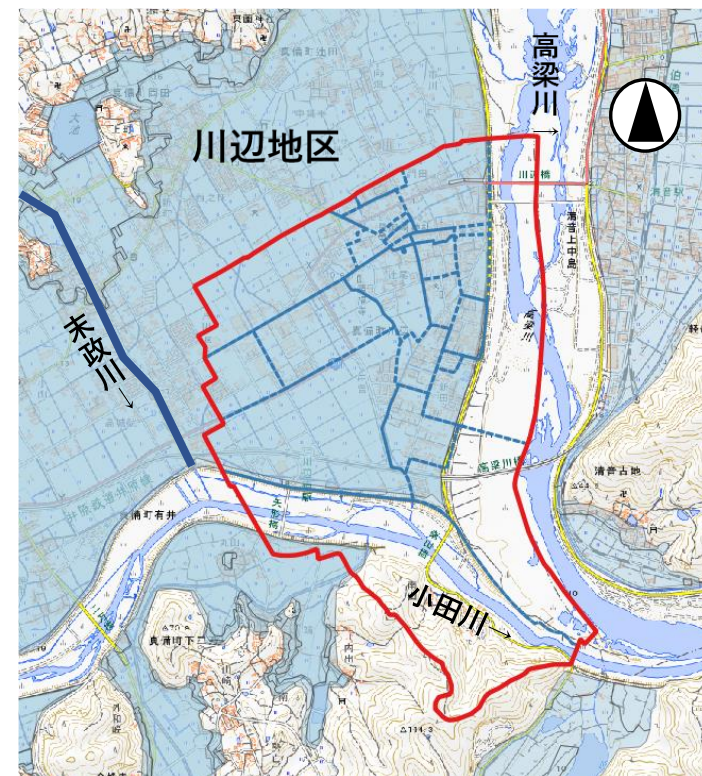
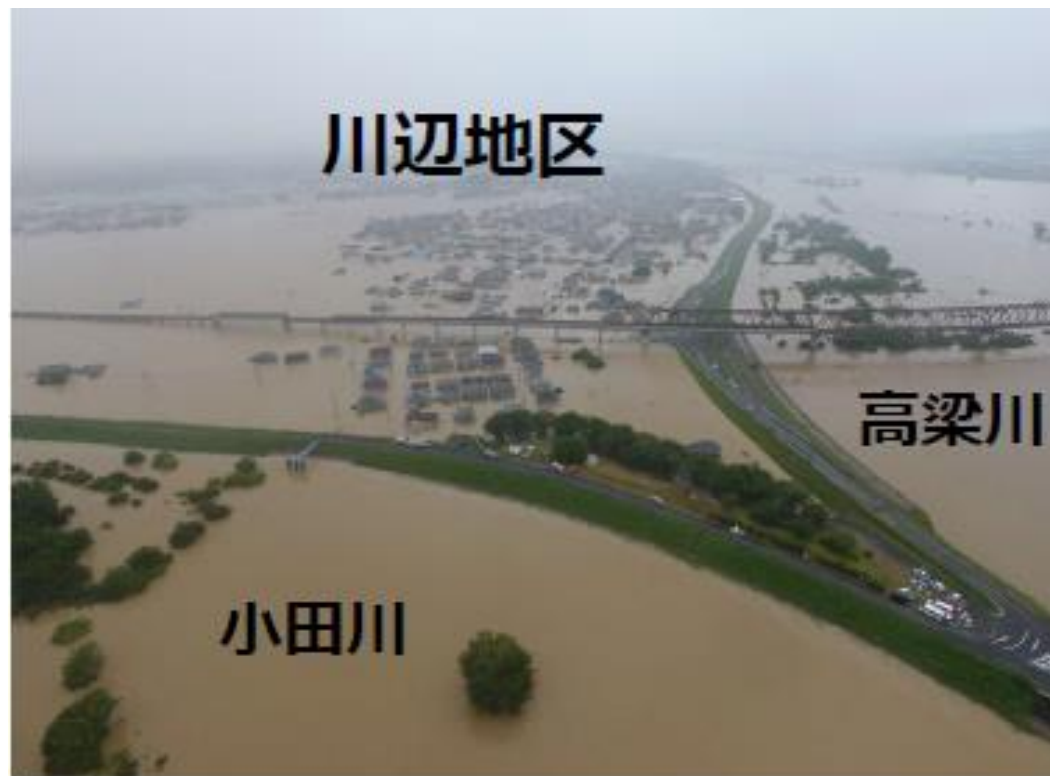
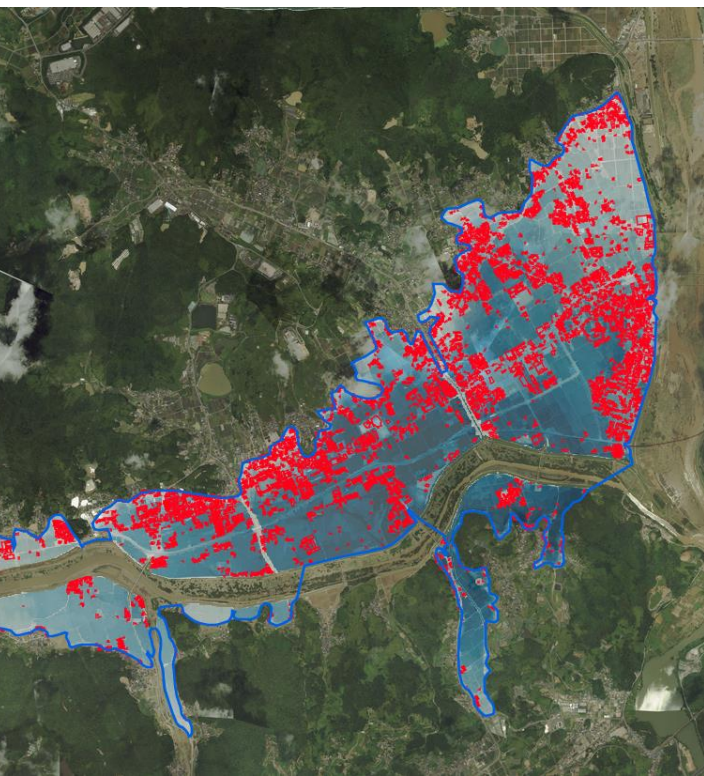
1945-1950空中写真



1965-1970地形図に平成30年7月豪雨災害の浸水区域を重ね合わせ  
出典：地理院地図



# 平成30年7月豪雨における川辺地区



- 川辺地区では6名が犠牲に
- 同地区は、ほぼ全域が浸水し、ほとんどの住居が全壊（床上1.8m以上の浸水）
- 大半の住民が川辺地区以外の仮設住宅へ転居し、地域の繋がりを継続することが困難に

2018年

7月  
発災

川辺復興プロジェクトあるく等、住民有志による取り組みの

声・想い  
行動

2019年

3月  
真備地区復興計画策定

第1回  
川辺みらいミーティング

参加者約80名：住民有志が集まり現在の困りごとや取り組みたいことなどを共有。

6月

第2回  
川辺みらいミーティング

参加者約60名：災害時に1人1人が取るべき行動を時系列でまとめる「マイ・タイムライン」

テーマ型  
コミュニティ

2020年

1月

COVID19感染脅威拡大

第3回  
川辺みらいミーティング

参加者約80名：当時の行動記録の作成と自助・共助の対応策をグループワークで意見出し。

5月

第4回  
延期

7月

COVID19第2波拡大

第4回  
川辺みらいミーティング

参加者対面30名・オンライン30名：アンケート結果報告会を少人数の対面とオンライン配信併用で実施。

会議やイベントの代替として家庭での備えを啓発するチラシ配布とアンケートの実施

2020年

10月



防災おやこ手帳の作成。被災の教訓を共有し、広く伝える取り組みの実施。

コミュニティ  
ハブ

授業



川辺みらいミーティング

参加者50名：川辺地区を4分割して防災まちあるきを計画。各家庭での避難の促進と町内会単位での活動への展開を模索。

2021年

1月

COVID19第3波拡大

第6回  
川辺みらいミーティング

参加者対面10名（発表者・スタッフ）・オンライン30名：川辺小学校と合同で防災マップ発表会。児童は発表動画で参加。



つながりの  
結いなおし

川辺地区全住民の内、約7割が参加！



## つながりの 結いなおし

- ・ 地域を共にするすべての人にタスキを
- ・ 川辺地区全体で同じ目標を共有することで、つながりの結いなおしに
- ・ 町内会の再編が難しい場合はオール川辺でフォロー
- ・ たかがタスキ, されどタスキ!!



目指そう！逃げ遅れゼロの川辺地区

お隣さんは  
無事かな？

## 黄色いタスキ大作戦



平成 30 年 7 月西日本豪雨の際に、「お隣さんが無事なのにか心配だった。」「避難したかどうかかわらず、声掛けに時間がかかった。」などの声をたくさん聞きました。そこで、「我が家は、避難しました！無事です！」と一目見て分かる安否確認グッズを川辺地区全域に配布することにしました。

### 川辺地区の『黄色いタスキ』ルール

1. 「無事です」のタスキが、「避難した」のサイン。
2. 平時は玄関などの目につく場所や非常時持ち出しバッグに結んで保管。
3. ドアノブがある場合はドアノブに、ない場合は、玄関付近の目立つところに結びつける。

※水害時→避難する前に、玄関付近の目立つところに結ぶ

※地震時→けが人もなく、家族全員が無事であれば、玄関付近の目立つところに結ぶ



結びやすく、目立つ色。  
ご近所さんはもちろん、町内会長さんや自主防災リーダーさんなどが安否確認をする際にも役立つ！



緊急時タスキが玄関先にないお宅に声掛けをしましょう。

黄色いタスキがない方は、何らかの事情で困っている場合があります。警戒レベル4、もしくは地震の余震がおさまったら迷わず「大丈夫ですか？お手伝いできることがありますか？」と、ご近所同士で声掛けをしましょう。

川辺地区の住民みんなで取り組もう！

令和3年度には、この「黄色いタスキ」を使った防災訓練をします。ぜひご参加ください。

まちづくり推進協議会・環境衛生協議会・老人クラブ・愛育委員会・民生委員・児童委員・地区社会福祉協議会・児童改善協議会・川辺小学校 PTA・川辺幼稚園 PTA・川辺分館管理組合・倉敷消防団真備第1分団第3部（川辺消防団）・婦人会・川辺みらいミーティング実行委員会

監修：香川大学 磯打千雅子先生 / 発起人・事務局：川辺復興プロジェクトあるく / 問い合わせ先：080-5752-0111



# タスキで乗り越える3つの壁



## ①遠慮・期待の壁

いざ、声かけしようとしても「急に声かけしてお邪魔じゃないだろうか」「きっと避難しているはず」といった考えが頭に浮かび、声掛けを躊躇してしまう。

## ②プライバシーの壁

「そんなに親しい間柄じゃないのに、訪問して不審がられるんじゃないだろうか」とお互いの生活を尊重するばかりに、一歩ふみこめない。



## ③日常・非日常の時間の壁

「自分が災害にあうはずがない」「忙しいのに防災対策まで考えていけない」など、やらなくて良い理由に阻まれる

# 防災がつないだ町の復興

- 被災の教訓をもとにした「黄色いタスキ大作戦」はコミュニティのつながりの結いなおしに貢献
- 防災活動は、被災を経験した地域にとって、悲しみや不安を分かち合い、寄り添い合い、そしてこれからの暮らしを安心して過ごせるよう、復興を次世代へつなぐための方策を共に考える場に
- 防災活動に取り組むことが、まちの暮らしを取り戻すことにつながり、人とひととのつながりをつむぎなおすことに



# 取り組み事例：真備町川辺地区 マイ避難先をおススメ

真備住民ら防災おやこ手帳作成 豪雨体験基に命守るヒント掲載

2020年10月25日 16時22分 更新

## 避難先候補

- ・ 難を避ける場所
- ・ 元気を回復
- ・ 数日過ごせる

## いつ出る？

- ・ 手段
- ・ ルート
- ・ かかる時間

## 何が必要？

- ・ 避難先、でる時間帯・手段によって異なる

- ・ 子どもや家族に怖い想いをさせないで！

- ・ マイ避難先は3箇所程度

- ・ お泊まり避難
- ・ プチご寝先避難
- ・ トド
- ・ 避難所
- ・ こどもた

避難スイッチナ

子どもが怖い！

子どもが大切に

尊重させて

- ・ 必要なものだけでなく、ご自身が大切に思っているものを尊重して

川辺復興プロジェクトあるくが作成した防災おやこ手帳

出典：山陽新聞

# 事例紹介

- 防災がつないだ町の復興
  - 倉敷市真備町川辺地区
  - 平成30年7月豪雨からの復興と“黄色いタスキ大作戦”
  - 誰もが参加しやすい工夫
- 要配慮者が地域をつなぐ
  - 要配慮者マイタイムラインの取り組み
- まちづくりからはじめる防災（まちづくり＋防災）
  - 岡山県津山市城西地区
  - 小規模多機能自治の取り組みに防災活動を上乗せ



# 平成30年7月豪雨の被害

小田川の破堤による外水氾濫の影響により、町全体面積の約3割が浸水 全壊をはじめとした住家被害は5,970棟

高馬川

小田川

5日18:30 大雨警報

5日23時00分 倉敷市災害対策本部設置

6日11時30分倉敷市内の山沿いに「避難準備・高齢者等避難開始」発令

真備地区避難所開設（岡田小学校、菌小学校、二万小学校）

6日19時30分 倉敷市内の山沿いに「避難勧告」発令

6日22時00分 真備地区全域に「避難勧告」を発令

小田川の水位が急激に上昇

6日22時40分 大雨特別警報が発表

6日23時45分 真備地区に「避難指示」を発令

小田川の水位が急激に上昇

7日1時30分 真備地区・小田川の北側に「避難指示」を発令  
高馬川の堤防が越水し、小田川の水が北方向に流れ込んでいる

7日1時34分 国交省が高馬川で堤防決壊を確認

7日6時52分ごろ 国交省が小田川で堤防決壊を確認



# 住宅等の確保の状況 <被災者住宅支援室>

○現在、22人の被災者が仮設住宅に居住している状況

## 住宅等確保の状況

建設型仮設住宅	2戸	5人
借上型仮設住宅	7戸	17人
公営住宅等（一時入居）	0戸	0人
応急修理の申込	1,033件	
リバースモーゲージ型融資の申込	142件	
住宅災害復旧等利子補給金の申込	569件	

※令和4年8月31日 時点

応急修理は、令和2年12月末をもって完了

### 【建設型仮設住宅の整備戸数の内訳】

二万 25戸

柳井原・みその・岡田・市場・真備総各仮設団地は閉鎖済

二万仮設団地 真備町上二万（令和4年7月現況）



## 借上型仮設住宅居住者の居住先

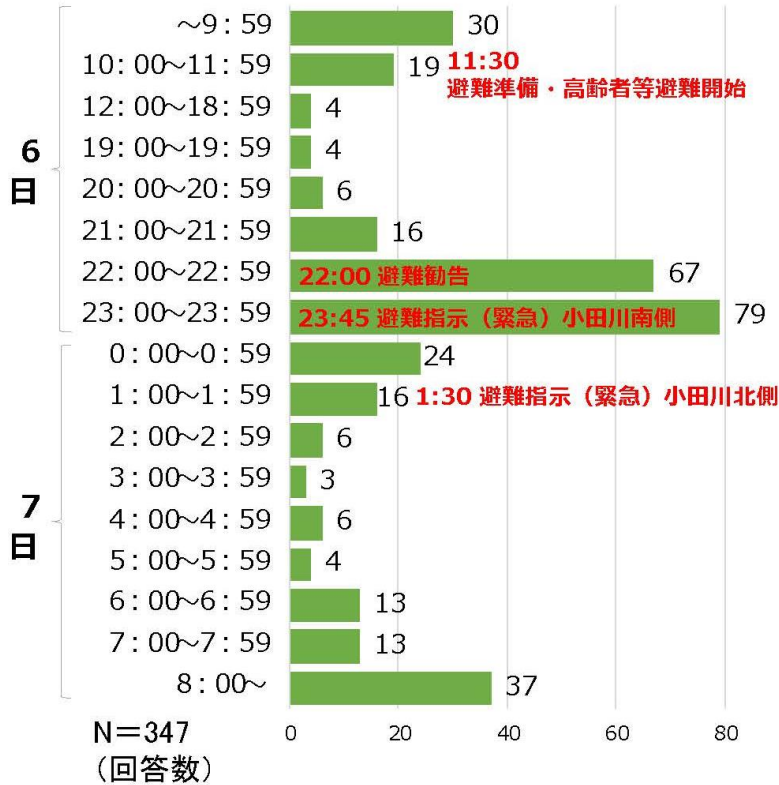


# 避難行動はなされていた

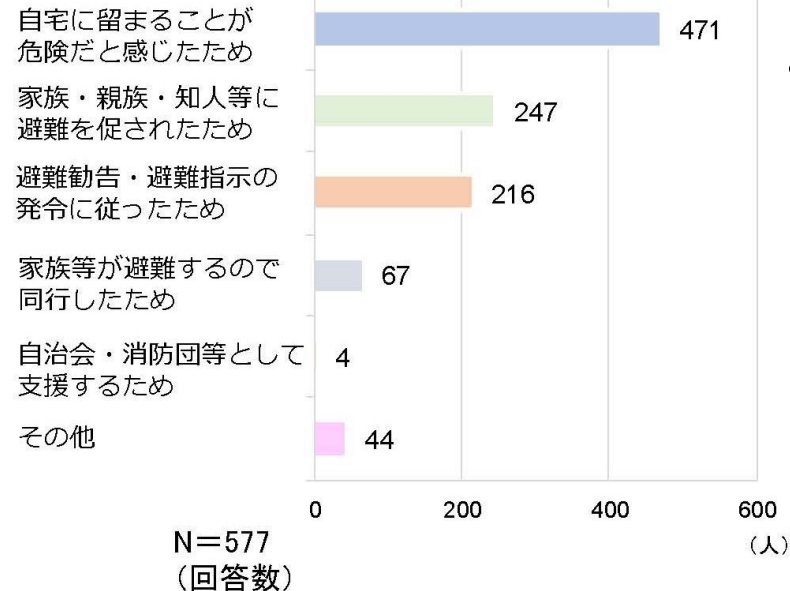
## 避難場所※に避難を開始した時刻

※学校等の公共施設（指定避難場所以外を含む）

ただし、親戚・知人宅や職場、神社・集会所・商業施設等に避難した世帯は除く。



## 避難した理由（複数回答）



・避難勧告・指示発令の段階で、全回答数（347）の内、225回答（64.8%）が避難開始している。

・課題は避難できない方



# 被害は高齢者に集中

- ・ 真備町の死者51名の内、88.2%にあたる45人が65才以上
- ・ その内、自宅でお亡くなりになった方は44人(86.3%)

要介護度及び身体障害の内訳(倉敷市)

年齢階層	県内全体	うち真備町
65歳未満	12人(19.7%)	6人(11.8%)
65～74歳	17人(27.9%)	15人(29.4%)
75歳以上	32人(52.4%)	30人(58.8%)

死亡場所	県内全体	うち真備町
自宅	44人(72.1%)	44人(86.3%)
その他	17人(27.9%)	7人(13.7%)

要介護度	人数(割合)
なし	33(63.5%)
要支援1・2	5(9.6%)
要介護1	6(11.5%)
要介護2	2(3.9%)
要介護3	4(7.7%)
要介護4	1(1.9%)
要介護5	1(1.9%)
合計	52(100%)

身体障害度	人数(割合)
なし	40(76.9%)
4～6級	4(7.7%)
3級	2(3.8%)
2級	3(5.8%)
1級	3(5.8%)
合計	52(100%)

真備町の死者51人のうち、88.2%にあたる45人が65歳以上である。



# サツキPROJECT

## ～西日本豪雨で被災したアパートを 地域の防災拠点住宅に再生する～

「今年はサツキの花がきれいに咲くぞ」

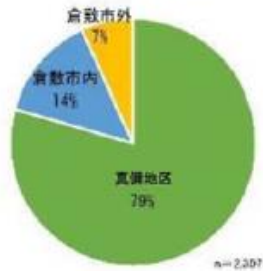
水害の後は酸性土になって  
サツキがきれいに咲く。  
真備の町花をサツキにした  
先人たちの知恵を伝えつないで  
いく。

チームサツキ

# 危険な場所には住んでいけないのか？

- ・ 住まいの再建に不安を抱える被災者と勉強会を重ねるなかで、真備への愛、家族への想いがあふれた
- ・ 「真備に帰りたい。でもまた災害が起こるのではないのか」
- ・ 「歳をとって一人で暮らしていけるのか」

○ 居住予定・希望の地区



住まいの再建に関するアンケート調査(第2回目)  
調査期間:令和元年6月6日～令和元年6月24日  
送付数:3,543世帯(応急仮設住宅入居世帯)  
回収数(率):2,378票(約67%)



第1回  
**住まいについて考える!**

これからの私たちの住まいと暮らしについて、  
専門家を交えて一緒に考えてみませんか？

H30年11月11日(日)14:00～  
**SOSU IN 真備**

開催場所:ぶどうの家BRANCH(B.B.) 真備町辻田197

講師:防災まちづくりの専門家 磯打さん(香川大学)  
在宅医療の専門家 浅野さん(あさのクリニック)  
建物・住まいの専門家(調整中)

お申し込み不要。当日直接会場にお越しください。

同日開催!

- ①16:00～みんなで炊き出しを食べよう
- ②生活物資の0円フリーマーケット
- ③お風呂の無料開放 16時～20時半まで

\*②③については毎日開催

お問い合わせ:TEL:086-697-5255 FAX:086-697-5256  
ぶどうの家BRANCH(B.B.)

最悪でも垂直避難ができ、日頃から安心して  
避難できる場所が身近にあれば命は助かる

サツキPROJECT





# 地域をつなぐ拠点 避難機能付き共同住宅

取組み事例：介護事業者による避難機能付き共同住宅（真備町箭田）



介護事業等を展開する事業者が中心となり、被災した賃貸住宅を**避難機能付き共同住宅として再整備**。

要配慮者の住まい、地域の交流拠点、災害時の一時避難場所 等のハード機能に併せ、要配慮者と地域住民が日常的に助け合えるソフト機能も導入する。モデル整備・運用・広報することで、真備町内や全国の水害リスクが高い地域への普及展開を目指している。

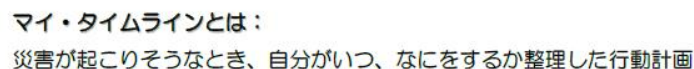






きっかけに

## ～作成ヒント集～



マイ・タイムライン（個別避難計画）				作成日： 年 月 日
ふりがな 本人(氏名):		家族	近所	組織 (会社・施設・ケアマネ等)
住所:		ふりがな 氏名:	関係: 携帯: ( - - ) ふりがな 氏名:	名称:
携帯:( - - )		ふりがな 氏名:	関係: 携帯: ( - - ) ふりがな 氏名:	担当者:
いつもいる場所(昼 夜 )		ふりがな 氏名:	関係: 携帯: ( - - ) ふりがな 氏名:	
避難リュックの置き場所( )		ふりがな 氏名:	関係: 携帯: ( - - ) ふりがな 氏名:	
<input type="checkbox"/> 一人暮らし <input type="checkbox"/> 高齢者世帯 <input type="checkbox"/> 障害 <input type="checkbox"/> 小学生以下 <input type="checkbox"/> その他( )		ふりがな 氏名:	関係: 携帯: ( - - ) ふりがな 氏名:	
自宅の危険性 <input type="checkbox"/> 浸水 <input type="checkbox"/> 土砂 <input type="checkbox"/> 地震		ふりがな 氏名:	関係: 携帯: ( - - ) ふりがな 氏名:	
5 3 日前	<input type="checkbox"/> テレビなどで大雨の情報を知る <input type="checkbox"/> 業を余分にもらっておく <input type="checkbox"/> 持ち物の確認 <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 大雨情報を伝える <input type="checkbox"/> 業を確認する <input type="checkbox"/> 持ち物の確認 <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 大雨情報を伝える <input type="checkbox"/> 業の準備の声掛け <input type="checkbox"/> 持ち物準備の声掛け <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 避難可能場所の把握・共有 (L3以前 ) (L3以降 )
2 日前	<input type="checkbox"/> いつ避難するか相談 相談する人( )	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)  <input type="checkbox"/> ( )対策本部立ち上げ
1 日前	<input type="checkbox"/> 家族・近所と避難準備状況を確認 <input type="checkbox"/> 避難先を決める 候補 { <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div>・</div> <div>・</div> <div>・</div> </div>	<input type="checkbox"/> 準備状況の確認 <input type="checkbox"/> 要支援者の避難先を決める <input type="checkbox"/> 自らの避難準備	<input type="checkbox"/> 準備状況の確認 <input type="checkbox"/> 要支援者の避難先を決める <input type="checkbox"/> 自らの避難準備	<input type="checkbox"/> 避難所準備
避難スイッチ ( L3 もしくは )				
半 日前	<input type="checkbox"/> 避難の希望を介助者に伝える <input type="checkbox"/> 貴重品の準備	<input type="checkbox"/> 避難の声掛け <input type="checkbox"/> 貴重品の準備  <input type="checkbox"/> 車の準備	<input type="checkbox"/> 避難の声掛け  <input type="checkbox"/> 車の準備(担当: )	<input type="checkbox"/> 避難所開設
4 時間前	<input type="checkbox"/> 荷物を持って玄関で援助を待つ (居室から玄関まで 分)  <input type="checkbox"/> 避難終了	<input type="checkbox"/> 避難開始  <input type="checkbox"/> 避難完了を共有(災害用伝言ダイヤル171等)	<input type="checkbox"/> 避難開始  <input type="checkbox"/> 避難完了を共有(災害用伝言ダイヤル171等)	
2 時間前	L4 避難勧告・避難指示			
L5 氾濫発生				

## 要配慮者マイ・タイムライン 作成事例

福祉事業所と地域の連携！

け

所が、要配慮者Dさんが住んでいる地域のリーダーEさんに、  
難について相談。

Dさんの近所の方に声をかけ、集会所に集まり作成

ローバー

Dさん（男性）、長男夫婦、近所3名、地域のリーダーEさん、  
職員

## ・状況

誰（歩行器を利用すれば、ゆっくりとだが歩行可能）  
 ことは自分でしっかりとでき、意思疎通も可能  
 で常時服薬が必要  
 暑が近くに住んでいる

って決めたこと

昇がDさんと一緒に避難する  
 友人は高齢化が進み、いざという時は、自分のことで精一杯  
 自分が避難する場合はできるだけ声をかけあうようにする  
 服で大雨が予想されたら、会ったときに話題にする

さんは「みんなに迷惑をかけるので避難所には行かない」  
いたが、みんなと話をする中で、長男夫婦と一緒に避難す  
自分の意思で決めた。



家族じゃないからこそ  
聞いてもらえることも！

※ □にチェックがつかない場合は、誰が実施するのか決めておくこと

# マイタイムライン作成のきっかけ

- 地域（となり近所）が声かけ
  - 例：車いすのあきおさんの近くに住んでいる友だちが、あきおさんの避難を心配し、あきおさん家族や近所に声をかけて作成。
- 地域のリーダーが声かけ
  - 例：地域のリーダー（まちづくり推進協議会会長）が、「1人で避難がむずかしい人のマイ・タイムラインを作成してほしい!」と町内会長にお願い。町内会長が、近所に声をかけて作成。
  - 例：民生委員が、自分が担当している避難に支援が必要な人（要配慮者）の家族、近所に声をかけて作成。
- 福祉事業所が声かけ
  - 例：福祉事業所が、地域のリーダーに相談。地域のリーダーが、近所に声をかけて作成。
  - 例：福祉事業所が行政機関に相談。行政機関が町内会役員に相談し、町内会役員が要配慮者の近所に声をかけて作成。



# マイタイムライン作成のながれ

- 作成の呼びかけ
- 隣近所に声かけ
  - ご近所さんへ, 福祉事業者へ
- 集合
  - 顔合わせ
- 避難について話をしよう
- 連絡先を交換

シートを埋めることが目的ではなく、  
顔が見える関係を  
築くことが大事！

で、



# 避難について話合いのポイント

- はじめに聞くこと
  - 支援する側の考えをおしつけない
  - (過去に経験があれば) 実際にどこに避難したか
  - どこに避難しようとしているのか
- ご本人のこと
  - 普段の生活
  - 親戚や地域とのつながり
  - 普段行動する範囲





# 避難について話合いのポイント

- 「どこに」「いつ」「誰と」「どうやって」 避難するか？
  - “マイ避難先”を2つ以上
  - 避難のきっかけは？ 誰が誰に連絡？ どんなきっかけで声掛け？
  - 誰と一緒に避難
  - 避難先で必要なこと
  - 薬の確保
- 連絡先の交換



# 要配慮者マイタイムライン 動画と漫画



# 事例紹介

- 防災がつないだ町の復興
  - 倉敷市真備町川辺地区
  - 平成30年7月豪雨からの復興と“黄色いたスキ大作戦”
  - 誰もが参加しやすい工夫
- 要配慮者が地域をつなぐ
  - 要配慮者マイタイムラインの取り組み
- まちづくりからはじめる防災（まちづくり＋防災）
  - 岡山県津山市城西地区における地区防災計画の取り組み
  - 小規模多機能自治の取り組みに防災活動を上乗せ



# 地区防災計画とは？

東日本大震災の教訓をふまえて創設された制度。地区居住者等が主体となって、地域の特徴を活かした災害時の“マイルール”をつくる取り組み。



- ① 地域に詳しい住民や企業、町内会、自主防災組織が作成する「地区の特性に応じた計画」
- ② 計画提案制度が採用される「ボトムアップ型の計画」
- ③ 活動の継続を重視した「継続的に地域防災力を向上させる計画」



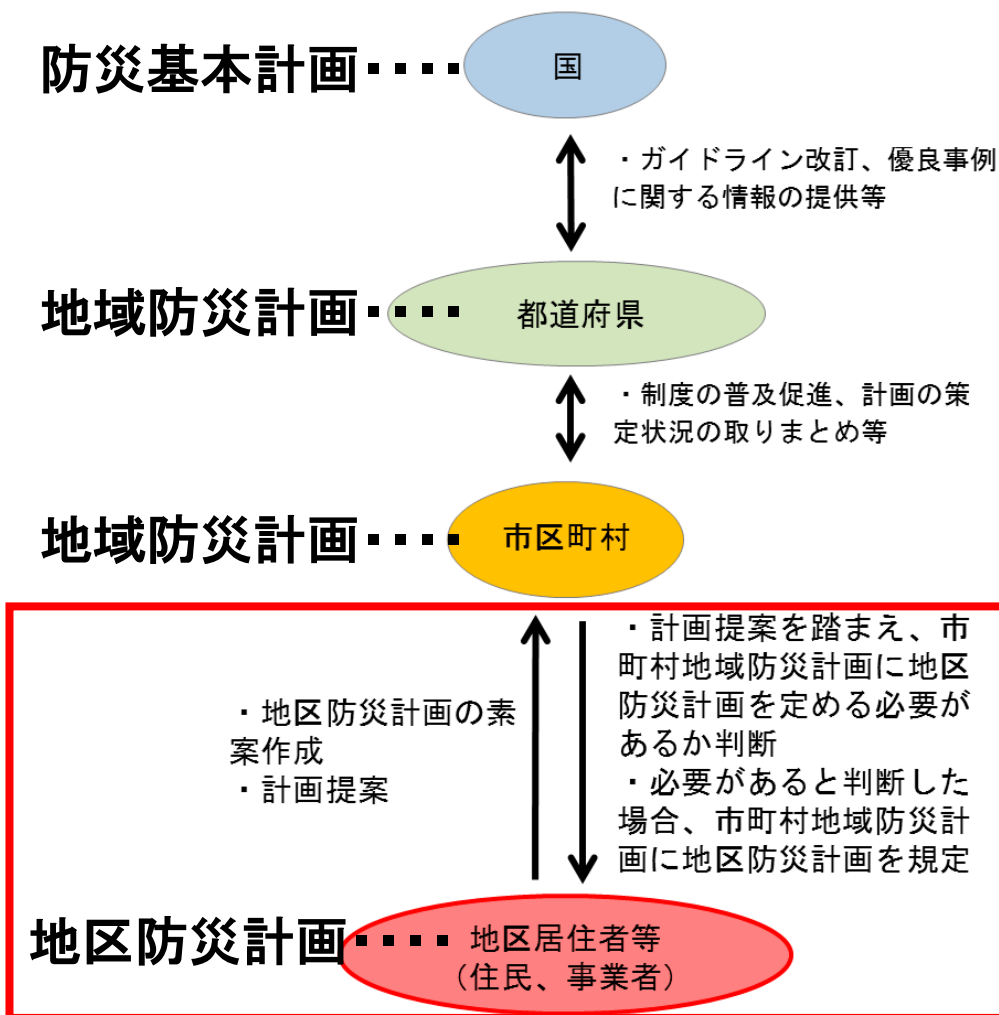
津山市城西地区



倉敷市真備町川辺地区

# 地区防災計画“制度”とは —ボトムアップ型の公的な仕組み—

平成25年災害対策基本法改正と地区防災計画制度



- ・ **地区居住者等**は、市町村防災会議に対して地区防災計画を定めることを**提案する**ことができる。
- ・ 市町村防災会議には、提案に対する応諾義務が課せられている。

出典：地区防災計画ガイドラインに加筆



# 津山市城西地区の取り組み

- 人口約10万人（4万世帯）
- 津山城（鶴山公園）は、日本の「さくら名所100選」に選定
- 津山まなびの鉄道館内の「旧津山扇形機関車庫」は、わが国に現存する扇形機関車庫の中で2番目の規模
- 町内会数365町内会（44支部）
- 自主防災組織率は100%



幸せなイベントあふれる街 津山市





# 津山市城西地区の取り組み経緯



人口約5千人/2千世帯  
高齢化率35%

平成8年～「津山・城西まるごと博物館フェア」 年1回開催



平成19年 城西公民館完成



平成21年 つやま城西ほりおこし隊 結成

平成23年 城西まちづくり協議会 組織化



平成28年 内閣府地区防災計画モデル事業

令和2年1月 岡山県地区防災計画モデル事業/地区防災計画作成



# 地区防災計画書作成の機運は自然に

- 平成28年11月からモデル地区に選定されたことにより、月1回の定例会議を開催。
- 災害の状況をイメージできるような教材を使った研修や実働訓練（年1回）を実施。



- 防災の取組みを始めたことにより、台風で地域の方がポツリポツリ避難してくるようになり
  - 「来てもらっても毛布1枚無い」
  - 「いつ、誰が、何を決断し、誰が行動するのか」



# 地区防災計画書作成の機運は自然に

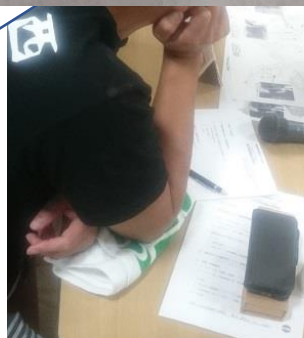
## ・ 毎年襲来 4. 城西地区防災計画作成に向けて

○ 今までの城西での活動より

- |                                     |                                  |                                    |
|-------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 自主防災組織体制   | <input type="checkbox"/> 防災まちあるき | <input type="checkbox"/> 避難所運営訓練   |
| <input type="checkbox"/> 自主防災組織連絡網  | <input type="checkbox"/> 防災マップ   | <input type="checkbox"/> クロスロードゲーム |
| <input type="checkbox"/> 自主防災組織規約   | <input type="checkbox"/> 城西見守り台帳 | <input type="checkbox"/> 諸団体との連携   |
| <input type="checkbox"/> 各町内強み・弱み   | <input type="checkbox"/> 災害備蓄品一覧 | <input type="checkbox"/>           |
| <input type="checkbox"/> 避難所運営マニュアル | <input type="checkbox"/> 地区防災訓練  | <input type="checkbox"/>           |

○ 計画に入れる内容

3年前に撮った写真やけえ、だいぶ変わっとるなあ。  
みなおさなあかんわ。



これまで行ってきた活動を棚卸しして、「地区防災計画」としてとりまとめていく目次構成をつくろうということに。

、町内会の一  
堂をあけたん  
とったけえね。

3人でじっく  
たわ。

らん  
をつ  
と考え

・ これまで防災防犯部会員を中心に取り組んできたが、平成30年7月豪雨災害をきっかけに城西地区全員に知ってもらうべき



## 津山市城西地区防災計画

2020/6/16  
ワークショップ形式でどこの内  
容を見直すべきかを意見出し。



平成10年 台風10号により浸水被害を受けた西寺町町内

「この計画書は私たちの地域の防災の教科書  
です。定例会ではこれをもとに話合います  
ので、毎回持参してください。」

令和2年1月

城西まちづくり協議会



4. 各町内の特徴・強み・弱み	4~5
5. 城西支部自主防災防犯協議会 組織図	6
6. 城西支部自主防災防犯協議会 緊急連絡網	7
7. 城西見守り台帳	8~10
8. 避難所配置想定図	11~21
9. 西小学校全体図	22
10. 西小学校教室配置図	23~24

## ◆別添

## 資料編（様式集）

1. 備蓄している防災用品
2. 町内別受付簿
3. 避難所入所者カード
4. 西小学校全体図
5. 西小学校教室配置図
6. 避難所配置想定図
7. 城西見守り台帳

## ■参考資料

- \* 台風10号災害  
【城西地区の記録 平成10年10月】
- \* 町内回覧チラシ（平成30年9月回覧）  
「災害時に命を守る一人一人の防災対策」
- \* 津山市城西地区防災マップ

## 資料編（様式集）

1. 備蓄している防災用品
2. 町内別受付簿
3. 避難所入所者カード
4. 西小学校全体図
5. 西小学校教室配置図
6. 避難所配置想定図
7. 城西見守り台帳

## ■参考資料

- \* 台風10号災害  
【城西地区の記録 平成10年10月】
- \* 町内回覧チラシ（平成30年9月回覧）  
「災害時に命を守る一人一人の防災対策」
- \* 津山市城西地区防災マップ

令和2年1月

城西まちづくり協議会



# 令和2年11月防災訓練実施にみる地区防災計画の効果

- 毎年11月に実施してきた防災訓練（避難所運営）→実施？中止？
- 訓練実施にあたっては、密な打ち合わせが必要 VS 感染対策

新型コロナウイルス感染拡大による  
極端な環境変化をポジティブに



密を避けるためにはどうすれば  
よいか？ 練習が必要！



地区防災計画書に記載のある班  
別に少人数で打ち合わせ



当日の運営も班毎にできるよう  
なブースタイプへ



## まちづくりに 防災が上乘 せされた

- ・まちづくり協議会の防災・防犯部会と福祉部会の連携のきっかけができた
- ・地区防災計画書にノウハウが蓄積されていたことにより、コロナ禍でも活動が継続できた
- ・防災に取り組むことで、あらたな担い手を獲得できた
- ・防災も街の魅力となり、全国から視察が訪れるようになった



# 平成30年7月豪雨 高浜地区は自分たちで地域を守った

高浜地区では、地区内35箇所で土石流やがけ崩れが発生し、人家11戸が全半壊の被害となったが、避難の際にけがをした1人ともう1名を除いて全員無事。

7月6日

06:20・土砂災害警戒情報発表（松山市全域）

午後・自主防災組織などが見回り開始（土砂崩れ等確認）

18時頃～・異常に気づき一軒一軒避難の呼びかけ、住民側から市に避難勧告を出すように要請

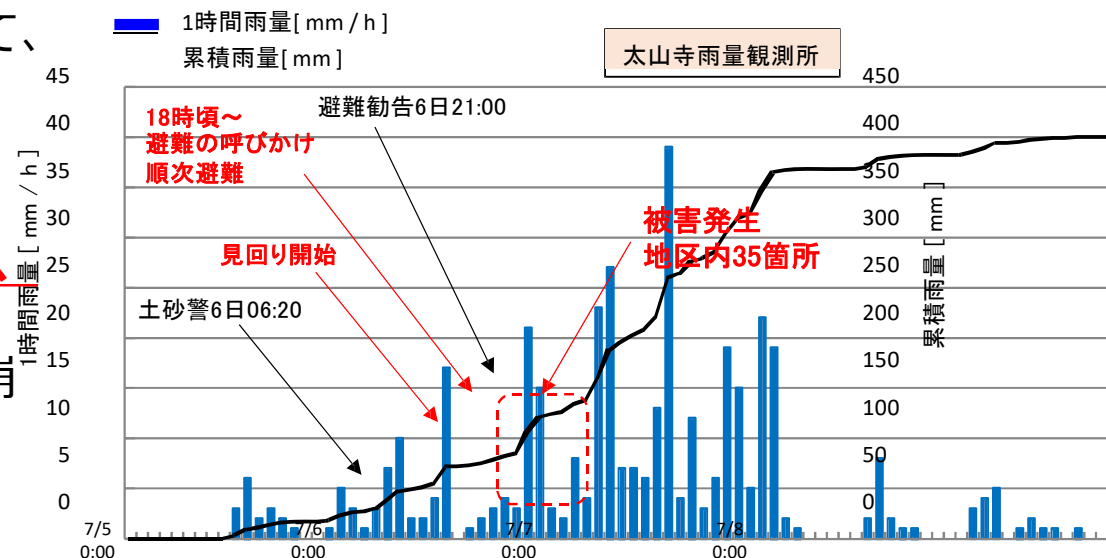
21:00・避難勧告（高浜3丁目、4丁目） ※以降随発令地区拡大

22時頃から翌朝にかけて地区内35箇所で土石流やがけ崩れが発生



## <ポイント>

- 3年前に土砂災害警戒区域が公表されたことを受けて、住民たちにより自主防災マップを見直し、土砂災害用の避難場所を新たに決めるなど、事前に備えていた。
- 自主防災組織などにより自主的に見回りが実施され、危険を確認した後は、行政の指示を待たず、避難行動がなされた。その結果、地区内35箇所で土砂崩れ等が発生したが、全員無事であった。
- 小型無人機「ドローン」を用いた被害調査を行い、今後の検討に取り組んでいる。



# 平成30年7月豪雨災害と地区防災計画

- 松山市における地域防災の取り組み体制
  - 消防局が地域の防災担当, 消防署単位で職員を地域に割り振り
  - 訓練の計画段階から地域と密に関わり, 資金面でも補助金を通じて, 何に使ってもらえて地域に何が必要なのか, 地域が何をしているのかの情報をキャッチ.
  - 顔を合わせる機会が多いので地域のニーズを把握しやすい.
  - 地域が自主防災を立ち上げたり訓練の計画の際に消防職員が顔を出している.
  - 様々なステークホルダーによる協議会を設立
  - 大学と連携し, 全世代に防災教育を展開

# 平成30年7月豪雨災害と地区防災計画

- **コミュニケーションチャンネル**としての地区防災計画の効果
  - 平成27～29年にかけて地区防災計画を全市41地区で策定→結果として平成30年7月豪雨災害の前に取り組みを実施できた
  - 各地区で内容的な差はあるものの、取り組む中で人が集まり、新しいメンバーでの顔合わせや関係性が構築されたこと、各地区で防災に関する共通認識ができ、地域の中での合意形成ができた
  - 被災後を振り返ると、地域と行政とのコミュニケーションチャンネルが確立できていたことが非常に功を奏した
- 災害時における**レスポンススピードの改善**
  - 市内で被害は多々あり、全ての対応がうまくいったというわけではないものの、確実に地区防災計画取り組み前より地域のレスポンスが早くなった
  - 被災直後など一番大変な時にも行政からの情報に対して即リアクションがあり、地域の初動に大きく役立った。
- 計画の実効性の確認
  - 計画立案も大切だが、計画内容を実行にうつすには地域にも初動に対する**準備時間（リードタイム）が必要**。計画に記載するわけではないが、計画通り活動するためのリードタイムが必要



# 平成30年7月豪雨災害と地区防災計画

- 地区防災計画は、「みんなで取り組む」ことがポイント（継続）
- みんなで取り組める工夫をみんなで考える
- 地域のマイルール = 地区防災計画
- 形にこだわらず、図化や文書化にて多くの主体に共有して、つながりの質を高める